

海部地区藻場造成調査

- 沿岸漁場整備開発調査事業 -

中西達也

海部郡沿岸では近年、アワビ類の漁獲量が減少し、その要因の一つとして藻場の減少・衰退があげられている。

県は、平成21年度から22年度にかけて当該地域における藻場造成計画を策定、事業化する予定である。

そこで、この藻場造成計画策定に資するため、計画策定の基礎となる資料収集を平成19年度から平成21年度にかけておこなう。

材料と方法

平成21年度は7つの地先における海藻の垂直分布、周辺の環境、食害や磯焼けの状況について潜水調査をおこなった。

結果と考察

1. 海陽町・鯖瀬（調査日：5月11日 水温：20℃）

調査地は、外洋に面した水深10m以浅の広い転石帯であり、トコブシ漁場として利用されている（図1）。

波浪流動の強い潮間帯下部ではサガラメ、クロメ、オオバモクが繁茂していた。その直下から水深10m付近まではヨレモクモドキ成体、及びサガラメの単葉体が生育し

ていた。また広い範囲で植食性魚による食害と考えられる茎部のみになったサガラメ（写真1）が見られ、転石の間隙にはムラサキウニ、ガンガゼが生息していた。

潮間帯下部を除いて、サガラメやクロメの大型海藻はほとんど見られなかった。魚とウニによる摂食圧による藻場の衰退が進んでいると考えられた。

2. 海陽町・加島（調査日：5月11日 水温：20℃）

調査地は、外洋からの波浪の影となる八工の内側である（図2）。波浪流動のある潮間帯下部でサガラメの繁茂が見られた。その直下の岩盤では、所々ムラサキウニの生息密度が高い場所があり、ウニの高い摂食圧によると思われる岩盤裸面が見られた。水深約9mの岩盤から砂地海底に変わる付近、及び砂面上に点在する転石上にクロメ大型個体の生育が見られた（写真2）。これは、砂の巻き上げにより海藻の着生面が維持され、また、ウニによる採食の影響が少ないためと考えられる。

3. 美波町・二見（調査日：5月12日 水温：19℃）

調査地は、外洋からの波浪の影響を強く受け急激に深くなる岩盤である（図3）。波浪流動の強い潮間帯下部のみでサガラメとヒラネジモクが繁茂していた。その直下から水深8m付近まではサガラメについては単葉体（写真3）の

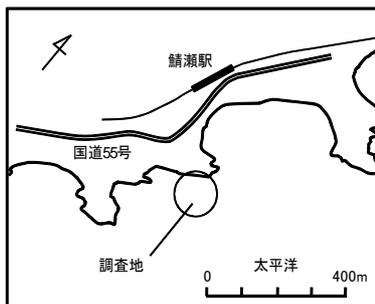


図1. 海陽町・鯖瀬

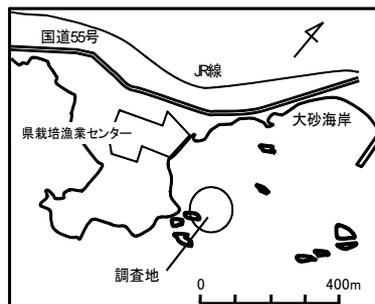


図2. 海陽町・加島

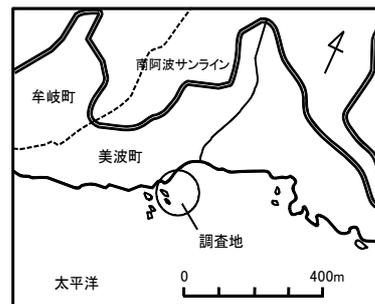


図3. 美波町・二見

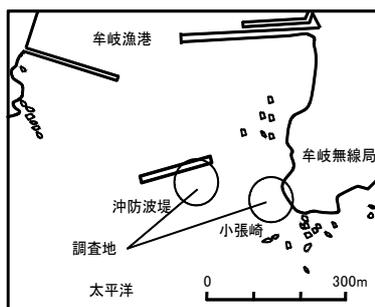


図4. 牟岐町・沖防波堤，小張崎

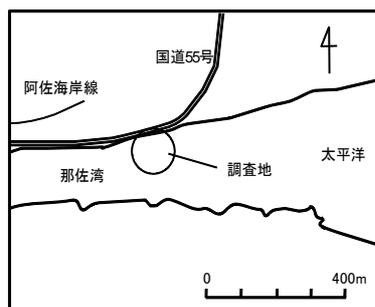


図5. 海陽町・那佐湾口

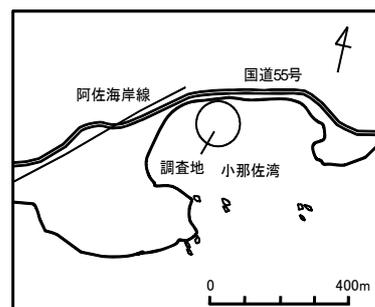


図6. 海陽町・小那佐

み見られ、大型海藻は見られなかった。また、岩盤の溝状部にはムラサキウニ、ナガウニの生息が見られた。

水深8m以深では、マクサやキントキなど小型海藻の繁茂が見られた。

4. 牟岐町・沖防波堤（調査日：5月26日 水温：21）

調査地は外洋からの波浪の影響を受ける消波ブロック帯である（図4）。波浪流動の強い潮間帯下部ではサガラメ、マクサが繁茂していた。水深3m～5mのうねりの反射波の影響がある場所はヨレモクモドキ（写真4）が生育していた。水深約6mの消波ブロックと砂地海底の境付近のブロック表面には、クロメ大型個体の生育が見られた。これは、砂の巻き上げにより海藻の着生面が維持されるためと考えられる。

5. 牟岐町・小張崎周辺（調査日：3月30日 水温：18）

調査地には、南側に大小のハエがあり、外洋からの波浪の影響が弱まる、岩盤と大小の転石に占められている場所である（図4）。波浪流動のある潮間帯下部ではサガラメの繁茂（写真5）が見られた。その直下の岩盤及び転石帯にはムラサキウニ、アカウニ、ナガウニ、ガンガゼが高密度

度（生息密度：16個/m²）で生息していた（写真6）。水深約8mの転石帯から砂地海底に変わる付近、及び砂面上に点在する転石上には、クロメ大型個体の生育が見られた。これは、砂の巻き上げにより海藻の着生面が維持され、またウニによる採食の影響が少ないからと考えられる。

6. 海陽町・那佐湾口（調査日：7月21日 水温：23）

調査地は、テングサ漁場として利用されている転石帯である（図5）。潮間帯から砂地海底（水深7.7m）に至る転石帯では、マクサ、アミジグサなどが繁茂していたが、所々ウニ類と考えられる摂食痕が見られた。

7. 海陽町・小那佐湾（調査日：7月28日 水温：24）

調査地は外洋に面した小湾の奥にあるハエである（図6）。

水深1.8mから5.3mの岩盤、転石上にフタエモク、ヘラヤハズ、アミジグサが生育していた。ムラサキウニ、ナガウニも多く生息していた。

11月と3月に行われた「徳島県豊かな海の森づくり検討委員会」にこれらの調査結果を説明した。



写真1. 海陽町・鯖瀬。食害で茎のみのサガラメ



写真4. 牟岐町・沖防波堤に生育するヨレモクモドキ



写真2. 海陽町・加島。砂地上の転石に生育するクロメ



写真5. 牟岐町・小張崎。潮間帯下部のサガラメ。直下にウニ（黒丸内）が高密度で生息する

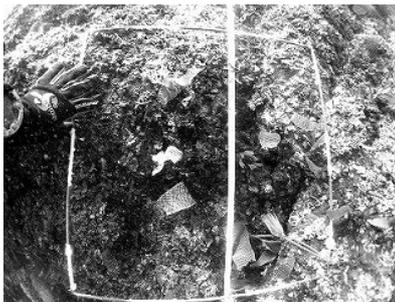


写真3. 美波町・二見。サガラメ単葉体

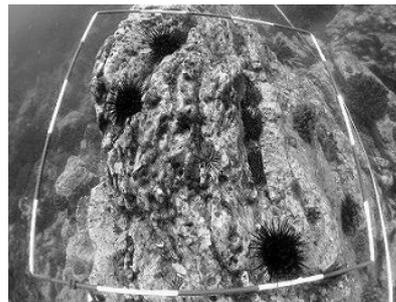


写真6. 牟岐町・小張崎。高密度で生息するウニ類